

JATA18-01

2018 年元旦

2018 年 JATA 会長 年頭所感

「2018 年は備える年」

一般社団法人日本旅行業協会 (JATA)
会長 田川 博己

明けましておめでとうございます。

2017 年を振り返ると海外旅行は様々な事件やリスクにもかかわらず伸び 1800 万人前後となり、国内旅行も回復傾向に入ってきました。インバウンドは 3000 万人に迫る勢いで、全般に明るい兆しが見えてきました。

2018 年を漢字一文字で表せば「備」（備える）となります。我々はかつての旅行業法改正に匹敵する「変革の時代の幕開け」を迎えます。これは今後日本のツーリズム産業が責任を持って持続可能な発展をするための変革であり、旅行業界もしっかりと対応していきたいと思えます。

まず何より 2019 年から導入予定の「国際観光旅客税」です。双方向交流をキーとした「交流大国こそ観光先進国」であるとの観点で海外旅行の促進策や次世代の観光立国を実現させるための政策提言をしていきます。

二つ目はてるみくらぶ事件の再発防止を目指すガバナンスの強化策への対応です。事後処理より事前防止に重点を置き、業界の信頼回復を図ります。

三つ目はランドオペレーター登録制度や通訳案内士の制度改定への対応です。いずれも JATA がこれまで要望してきたことで、我々が運用している品質認証制度と合わせてインバウンドビジネスを質量両面で充実させる改革を定着化させなければなりません。

市況は堅調とはいえ、市場は成熟化し、販売チャネルも多様化が進んでいます。このような変化する環境に対し、海外旅行は 2 年目を迎えるアウトバウンド促進協議会の活動を進めていきます。国内旅行は訪日旅行と関連させて、地域の観光資源の磨き上げや DMO など受け入れ態勢へ参加など、旅行会社ならでの価値づくりを進めていきます。

ツーリズム EXPO ジャパンは観光を取り巻く時代の変化や観光の裾野の広がりを見える化した「観光博覧会」になりつつあります。世界最大級の展示商談会を核とする BtoB の完成を行い、地方開催につなげる年とします。2019 ラグビーW 杯、2020 年東京オリパラ、2021 年ワールドマスターズゲームと続くスポーツのゴールデンイヤーを控え、「スポーツツーリズム」のカタチも見せていきたいと思えます。

2019 年からの大きな変化の潮流に備え、「攻めのディフェンス」をする。それが 2018 年です。国内、海外、訪日の 3 つを三位一体で展開できる JATA に期待されることは大きく、その期待にこたえる年にしたいと考えています。

本年も引き続きご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上

お問い合わせ先

(一社) 日本旅行業協会 広報室 (矢嶋・稲葉)
TEL : 03-3592-1244